

第17回西日本ハムフェア開催される（今年も2,000名を超える来場！）



平成30年3月4日、福岡県京都郡苅田町の[日産自動車九州\(株\)](#)体育館およびゲストホールで、第17回西日本ハムフェアが九州地方はもちろん、全国各地から過去最高の約2,100名の来場者を迎えて盛大に開催され、ご来場いただいたみなさんは、無線機器メーカー展示の見学や、無線機器販売店やフリーマーケットでの掘り出し物散策、アイボール、各種講演などをそれぞれ大いに楽しまれていたようです。

西日本ハムフェアは昨年2017年の第16回で、来場者約2,000名の大台を達成しました。

すでにご存知の方もいらっしゃるかも知れませんが、実は今年の西日本ハムフェアには、恐るべきエピソードがあります。

実行委員会では、昨年9月1日から第17回の西日本ハムフェアの出展団体募集を開始したのですが、ナント！わずか4日間で申し込みが予定の出展小間数に到達し、その後の申し込みを締め切らざるを得なくなってしまったのです。この事実は出展者にとっても一般来場者にとっても、西日本ハムフェアの人気ぶりを象徴する大きな出来事と言えるかも知れません。

そして今年も2,000名を超える来場者を迎えて、すっかり「西日本」の冠が本当によく似合うイベントになりました。



▲開会式テープカット（左）のようすと、入場開始にわく来場者の方々（右）

さて、開催前日の搬入日で前夜祭（懇親会）が開催された3月3日は曇天、午後にはまとまった量の雨が降り翌日の天候が危ぶまれましたが、当日は幸いピーカンの青空に恵まれ、開会時刻の09:00前には入場口には開会を待つ来場者が多数集まり開会式を待ちました。

開会式の、山本幸三衆議院議員、JARL高尾義則会長（JG1KTC）ほかの来賓挨拶を終え、テープカットの直後から、来場者が一斉に流れ込み会場内が身動きが取りにくいほど混雑していくのは、毎年の西日本ハムフェアのいわばお約束です。

今年も開会直後の、駐車場の駐車台数を大雑把に数えてみましたが、500台はゆうに超える駐車を確認できました。

ガイドブックの配布状況から実行委員会が発表していた09:30現在の来場者数は700名で、この数字はこの時点の駐車場のようすから見ても十分に説得力があります。



▲開場のころの駐車場のようす



▲開場直後から大混雑が始まった

10:00時台になると、さらに駐車場にはアンテナが付いた車でどんどん埋まっていき、場内の大混雑がまさにピークを迎えたのは10:00台後半で、この混雑状態はお昼前まで続きました。

12:00を過ぎたころには場内の大混雑はいくぶん解消され、駐車場の駐車スペースの利用状況にも変化が見られた事から、来場者の入れ替わりが感じられました。

さて西日本ハムフェアには地元の九州地方のみではなく、関西地方の販売店等の出展が多く見られます。クラブ等も、関西地方から出展のブースが多く見られます。

ちなみに今年の西日本ハムフェアに出展いただいた、無線機器販売店等は次のとおりです（五十音順）。

【九州】 [オリエンタルハムショップ](#)（熊本）・ [カホパーツセンター](#)（福岡）・ [クマデン](#)（熊本）・ [ハムジン](#)（福岡）・ [ハムセンター長崎](#)（長崎）・ [福岡ハムセンター](#)（福岡）

【関西】 [ウエダ無線](#)（大阪）・ [日栄無線](#)（大阪・京都・滋賀・奈良）・ [無線とパソコンのモリ](#)（大阪）・ [ラジオパーツジャパン](#)（大阪）

この点について、西日本ハムフェア事務局の井上 滋さんは『西日本ハムフェアでは、以前から九州地方だけではなく、広く他エリアに向けてもブース出展の呼びかけをおこなってきました。文字通り「西日本」のハムフェアとして、地元九州の販売店等も、関西の販売店等も各店それぞれの特徴や品揃えを十分に発揮して出展されています。今年もご来場の皆様には、さまざまな特徴のある販売店等のブースで、掘り出し物散策を十分に楽しんでいただいたと思っています』と語っています。



▲各種の講演もおこなわれた



▲子供たち向けの工作教室

ゲストホールではFCC試験や、次のような各種の講演等がおこなわれ、来場者の方々はそれぞれ興味のある講演に熱心に聴き入っていました。

1. JARLの現状と最近の取り組み（JARL高尾義則会長）
2. スプリアスについて（JARD近藤信行氏）
3. 八重洲無線機の魅力（八重洲無線(株)黒田裕司氏）
4. アイコム アマチュア無線機の魅力（アイコム(株)稲葉浩之氏）
5. オール九州コンテスト表彰式



▲記念局8J6HAM公開運用



▲抽選会（ビンゴゲーム）

■西ハムコンサート■



▲JI1BTL水田かおりさん



▲JJ0SDQ渡部まいこさん



▲JJ3WWS青木小夜子さん

また口ビーではJJ3WWS青木小夜子さん、JI1BTL水田かおりさん、JJ0SDQ渡部まいこさんによる西ハムコンサートや、子供たちを対象とした電子工作教室、「きつねを探そう」（ミニFOXハンティング）も実施され、記念局の8J6HAMの公開運用もおこなわれました。

また毎年、実行委員会の重要な懸案事項の一つとなっている会場内の電源供給ですが、7台の発電機を会場外敷地内の安全な場所に配備しておこない、今年は電源のトラブルがおこることは一度もありませんでした。

最後に、ビンゴゲームによる記念品抽選会がおこなわれ、西日本ハムフェアの全日程が終了しました。



▲第17回西日本ハムフェア会場を縁の下で支えた7台の発電機たち

こうして第17回西日本ハムフェアは今年も盛況のうち終了しましたが、これは実行委員会の次回、第18回開催の準備開始を意味しています。

事務局の井上さんは、『次回の西ハムに向けて、何か新しい企画や、ヒントなどを見つけに、1週間後の3月11日に仙台市で初開催される東北復興アマチュア無線フェスティバルの視察にいきます』と語っており、来年開催される第18回西日本ハムフェアもさらに大きな進化が期待できそうです。

■第17回西日本ハムフェア懇親会



第17回西日本ハムフェアの前日の3月3日、福岡県行橋市の京都ホテルで、西日本ハムフェア懇親会が開催されました。当日は100名を超える出席があり、翌日の西日本ハムフェアの大成功を祈念しつつ、アマチュア無線談義を大いに楽しみました。

アトラクションとして、地元行橋市の「飛龍八幡太鼓」の勇壮な演奏が披露され、また、JI1BTL水田かおりさん、JJ0SDQ渡部まいこさん、JJ3WWS青木小夜子さんによるミニライブありました。

【こぼれ話】第17回西日本ハムフェアガイドブックの背表紙 広告は九州生まれの日産の新型車

西日本ハムフェアに限らず、各地で開催される大型イベントでは、実行委員会が「ガイドブック」を制作して来場者に配布しています。このガイドブックに掲載の広告料金は、イベント自体の運営経費とガイドブックの自身の制作経費に補填され、広告主はアマチュア無線のイベントの場合だと、イベントに出展するメーカーや販売店、イベントに協賛するクラブや個人などである場合がほとんどなのですが、今回の西日本ハムフェアのガイドブックの背表紙は、アマチュア無線関連ではなく、なんと新型「エクストレイル」のカラー広告なのですからある意味驚きです。



表紙

背表紙

実はこの新型エクストレイルは、西日本ハムフェア会場をご厚意でお貸しいただいている、日産自動車九州(株)が製造している、九州生まれの新型車です。

実行委員会の方のお話によると、おのカラー広告は日産自動車九州(株)からの自発的なご出稿お申し込みをいただいて掲載に至ったものだそうです。

西日本ハムフェア実行委員会と会場提供の形でご後援をいただいている日産自動車九州(株)の間に、とてもよい連携・協力関係が保たれていることがよくわかるエピソードですね。

(3月6日)

もどる



| [2017年のNEWS](#) |